

経済・金融 フラッシュ

最近の人民元と今後の展開 (2015年2月号)

経済研究部 上席研究員 三尾 幸吉郎

TEL:03-3512-1834 E-mail: mio@nli-research.co.jp

- 1月の人民元相場は基準値が米国ドルに対して小幅下落、現物実勢はやや大きめの下落となった。22日に欧州中央銀行（ECB）が市場予想を上回る規模で資産買い入れプログラムの拡大を決めたことから欧州ユーロが下落、人民元はユーロに連れ安する展開となった。
- 今後の人民元（現物実勢）は1米国ドル=6.25元前後（取引レンジは同6.12~6.27元）での推移と予想している。中国では依然として景気下ぶれ懸念が高い一方、中国人民銀行は基準値を高めめに設定しており下落余地も限られているからである。但し、許容変動幅を拡大するという波乱材料がある点には注意が必要である。

[前月の動き]

1月の人民元相場は基準値が米国ドルに対して小幅下落、現物実勢はやや大きめの下落となった。11月以降2ヵ月に渡り軟調な動きが続いていた人民元の現物実勢は、その反動もあって1月初旬には小反発、15日には当月高値となる1米国ドル=6.1888元（スポット・オファー、中国外貨取引センター）を付けたが、22日に欧州中央銀行（ECB）が政策理事会を開催して市場予想を上回る規模で資産買い入れプログラム拡大を決めたことから欧州ユーロが下落すると、人民元も連れ安する展開となり、26日には当月安値となる同6.2556元まで売られた。その後はもみ合いとなり、1月末は前月末比0.7%元安・ドル高の同6.2520元で取引を終えた。一方、基準値もやや下落した。16日に当月高値となる1米国ドル=6.1188元を付けた後、26日には当月安値（同6.1384元）を付け、1月末は前月末比0.3%元安・ドル高の同6.1370元で取引を終えた（図表-1、2）。また、基準値が小幅下落する中で、現物実勢はやや大きめの下落となったことから、現物実勢は許容変動幅（基準値±2.0%）の下限に急接近することとなった。

(図表-1) 人民元（対米国ドル）の価格推移

	基準値		現物実勢	
		前日比 (注)	オファー	ビッド (注)
12月末	6.1190	-	6.2108	6.2063
1月5日	6.1248	▲0.0058	6.2212	6.2199
1月6日	6.1256	0.0008	6.2135	6.2126
1月7日	6.1269	0.0013	6.2135	6.2129
1月8日	6.1302	0.0033	6.2153	6.2145
1月9日	6.1296	▲0.0006	6.2094	6.2087
1月12日	6.1233	▲0.0063	6.2035	6.2029
1月13日	6.1195	▲0.0038	6.1984	6.1975
1月14日	6.1205	▲0.0010	6.1962	6.1957
1月15日	6.1193	▲0.0012	6.1888	6.1879 (当月高値)
1月16日	6.1188	▲0.0005 (当月高値)	6.2084	6.2066
1月19日	6.1230	▲0.0042	6.2211	6.2199
1月20日	6.1226	▲0.0004	6.2143	6.2137
1月21日	6.1268	▲0.0042	6.2120	6.2114
1月22日	6.1247	▲0.0021	6.2094	6.2097
1月23日	6.1342	0.0095	6.2290	6.2279
1月26日	6.1384	0.0042 (当月安値)	6.2556	6.2540 (当月安値)
1月27日	6.1364	▲0.0020	6.2440	6.2435
1月28日	6.1282	▲0.0082	6.2480	6.2474
1月29日	6.1335	0.0053	6.2470	6.2465
1月30日	6.1370	0.0035	6.2520	6.2504

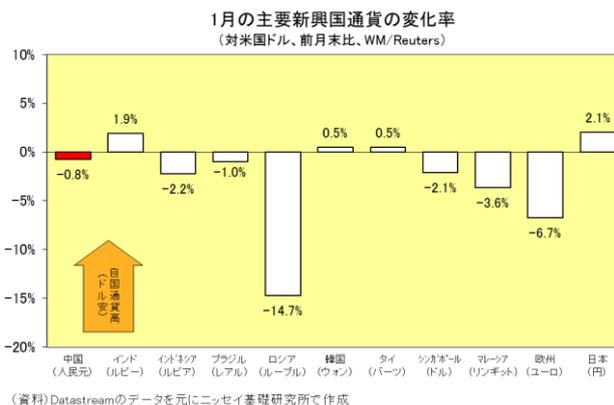
(資料) CEIC(中国外貨取引センター)

(図表-2)



一方、世界の通貨の動きを見ると、1月は日本円やインド（ルピー）など米国ドルに対して上昇した通貨も散見されたが、ロシア（ルーブル）が30日に利下げを決めた後に急落し前月末比14.7%の大幅下落、欧州ユーロも前述のような理由で同6.7%下落するなど米国ドルに対して下落した通貨が目立つ月となった。なお、ユーロに連れ安した中国（人民元）は、やや大きめの下落となったものの、世界通貨の中ではあまり目立つ動きではなかった（図表-3）。

(図表-3)



[今後の展開]

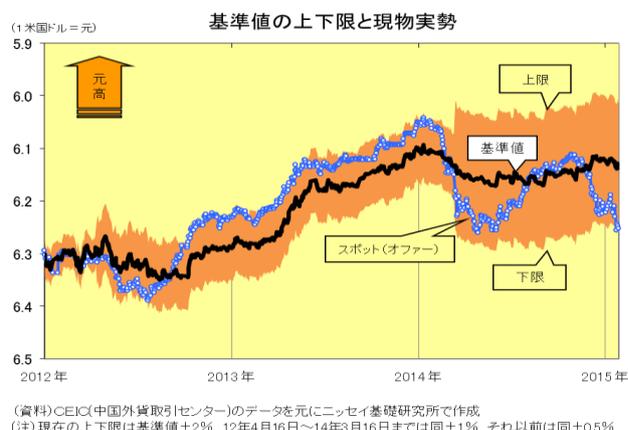
さて、今後の人民元（現物実勢）は1米国ドル=6.25元前後（取引レンジは同6.12~6.27元）での推移と予想している。中国の景気動向を見ると、2月1日に発表された1月の製造業PMIは49.8%と拡張・収縮の境界線となる50%を割り込み、非製造業の商務活動指数も3ヵ月ぶりに悪化するなど、景気下ぶれ懸念が高まっている（図表-4）。一方、欧州ユーロがさらに下落すれば人民元には下落圧力が掛かる。しかし中国人民銀行は基準値を高めめに設定（許容変動幅の下限を同6.26元前後に維持）しており、人民元の下落余地は限られている。従って、当面の人民元は1米国ドル=6.25元前後で推移すると見ており、取引レンジは同6.12~6.27元を想定している。15年下期に景気が上向けば上値（同6.12元）をトライ、景気低迷が長引けば15年下期に下値（同6.27元）をトライすると予想している。

但し、許容変動幅を拡大するという波乱材料がある点には注意が必要である。欧州ユーロが対米国ドルで大きく下落したことで対ユーロでは人民元の割高感が高まっている。仮に、許容変動幅が±3.0%へ拡大されれば、下限は1米国ドル=6.32元前後まで広がる。下限に張り付く中で許容変動幅を拡大すれば、市場は下落を許容したと受け止めて下落が加速しかねないだろう（図表-5）。

(図表-4)



(図表-5)



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。